

まちひとしごと

Vol. 19

喫茶東屋、Mountain kiosk coffee

代表 井原 寛公 さん

広い世界を知り 自分らしく表現していく



倶

知安町に生まれ育ち、中学生のころにスノーボードに出会った後も、この町を拠点に活動し続ける井原寛公さんは、現在、町内で2つの飲食店を経営している。

「もともと新しいものへの興味が強かったんだと思います。中学生のころにテレビなどで世界に挑戦する日本人アスリートを見て、自分ももっと広い世界を知りたいと思うようになりました」

高校生となり、スノーボードにさらに熱中した井原さんは、腕試しに出場した全日本ユースのハーフパイプ競技で優勝したことで、国際大会にも参加するようになった。

「世界で戦う人たちは、みんなが

しっかりと自分を表現してくるので、その中で自分も負けられないし負けたくない。その頃に受けた貴重な経験と刺激が、自分を強くしてくれたと思っています」

その後もしばらく競技を続けてきたが、徐々に競い合うことだけでは満足できなくなり、スノーボードを通して自らを表現したいと考え、雑誌や映像の世界にその舞台を移していった。

「競技で海外遠征をしていた頃に、たくさんさんのスキーリゾートを見てきました。それぞれの町が画一的なものではなく、根差した風土や文化を大切にしており、それによりさらに魅力的な町をつくっていました」

自身の経験を、地元で表現したい。そう考えた井原さんは、プロスノーボーダーとしての活動を続けながら、約10年前、これまで経験のなかった飲食店経営への挑戦を、生まれ育った町で始めた。

「開店にあたり、町の顔である駅前通りへの出店を決めました。当時、駅前通りの飲食店は今よりも少なく、周りからは本当に大丈夫かと心配されました。それでも持ち前の負けない気の強さを武器に、何とか経営が軌道に乗ったところには、周囲の人もいい場所に店を出したね。と言ってくれるようになったんです」

この時に開店したお店は、業態を変えながら移転をし、現在も多くの

町民をはじめ町を訪れる人たちの癒しの空間となっている。また5年前には国内外の観光客でにぎわうスキー場周辺に、コーヒースタンドをオープンした。

「さまざまな人や物から受けた刺激を、この町で育った私が、自分なりのかたちで表現して行くことにより、さらにこの町が元気になればと考えています」

常に新しいことを考えているという井原さんは、現在多くの観光客が訪れ、国際化する町の未来について、次のように話していた。

「現在の町の姿は海外からの投資による開発など、外から来た人たちの力によるものも大きいと感じています。外からの視線はとても大切なことですが、これからは俱知安で生まれ育った子どもたちが活躍できる町になればと考えており、そのために、今後も自分にしかできないことに挑戦していきたいです」

広い世界を知ることと自分らしさを大切にすること。国際化が進む中で、魅力ある町であり続けるために大切なことを井原さんは教えてくれた。